

(様式2)

農業の新しい技術

No. 701(平成28年5月)
分類コード 01-14
熊本県農林水産部

褐毛和種種雄牛「^{みつしげくまご}光重球磨五」の選抜

農業研究センター 畜産研究所生産基礎技術研究室
担当者：安武誠至

研究のねらい

産肉能力直接検定で選抜された種雄牛の遺伝的能力を推定するため、後代牛による産肉能力現場後代検定を実施し、その肥育及び産肉能力により優秀な種雄牛を選抜する。

研究の成果

1. 肉質および枝肉重量、ばらの厚さに優れた褐毛和種種雄牛「光重球磨五」を選抜した。

○血統

父	光重球磨 (繁殖 91)	祖父	重球磨(特級 91)	—	重常(1級 576)
		祖母	第五さゆり☆☆(繁殖 4482)	—	光重E T(育高 1)
母	さきこ☆ (育高 738)	祖父	第十六光重(育高 2)	—	光重E T(育高 1)
		祖母	ゆめさつき☆(繁殖 12708)	—	第十光丸(高 76)

○登録番号：繁殖 1 8 8

○生年月日：平成 2 2 年 1 2 月 3 日

○生産地：下益城郡美里町(三浦 郁夫)

2. 現場後代検定成績および育種価

○ばらの厚さは去勢 8.5 cm、雌 8.5 cmと優れており、育種価でも 10.05(評価種雄牛 505 頭中 2 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○脂肪交雑等級は去勢 4.08、雌 3.33 と優れており、育種価でも 2.18(評価種雄牛 505 頭中 16 位)と極めて高く、優れた能力を有すると推定される。

○枝肉重量は去勢 496.9kg、雌 487.7kg と優れており、育種価でも 36.18(評価種雄牛 505 頭中 23 位)と高く、優れた能力を有すると推定される。

○SBVは枝肉重量 1.91、脂肪交雑 2.07、ロース芯面積 2.23、ばらの厚さ 3.19、皮下脂肪の厚さ 0.61 であり、皮下脂肪の厚さを除くすべての項目について改良効果が大きいと推定される。

※SBV(標準化育種価)は、育種価評価値をわかりやすくするために、標準化したもの。値が±1 以上の場合、改良効果が高いことを示す。

3. 特徴

枝肉重量やロース芯面積、ばらの厚さなどの肉量が極めて優れていることから増体性の改良に有効であり、さらに脂肪交雑についても優れている。また、希少系統である重波系「光重球磨」の後継牛として期待される種雄牛である。

[具体的データ]

熊本県農林水産部



光重球磨五 (みつしげくまご)



格付け:A-4 枝重:536.9kg
 BMS:6 ロース:54cm²
 ばら:9.4cm 母の父:第十六光重

表1 現場後代検定成績

区分	頭数	枝肉重量 (冷と体) (kg)	脂肪交雑 (BMS No.)	ロース 芯面積 (cm ²)	ばらの 厚さ (cm)	皮下脂肪 の厚さ (cm)	日齢枝肉 重量 (g)
去勢	12	496.9	4.08	54.7	8.5	3.4	641.0
雌	3	487.7	3.33	57.3	8.5	3.8	643.7
全体	15	495.1	3.93	55.2	8.5	3.5	641.5

表2 育種価(BV) (H28.2 評価)

	順位	育種価 (正確度)
枝肉重量	23	36.18 (0.89)
脂肪交雑	16	2.18 (0.92)
ロース芯面積	18	7.60 (0.88)
ばらの厚さ	2	10.05 (0.88)
皮下脂肪の厚さ	389	2.23 (0.91)
日齢枝肉重量	23	46.66 (0.89)

※ 後代頭数 16 頭(フィールド成績を含む)

※ 順位は評価種雄牛 505 頭中の順位

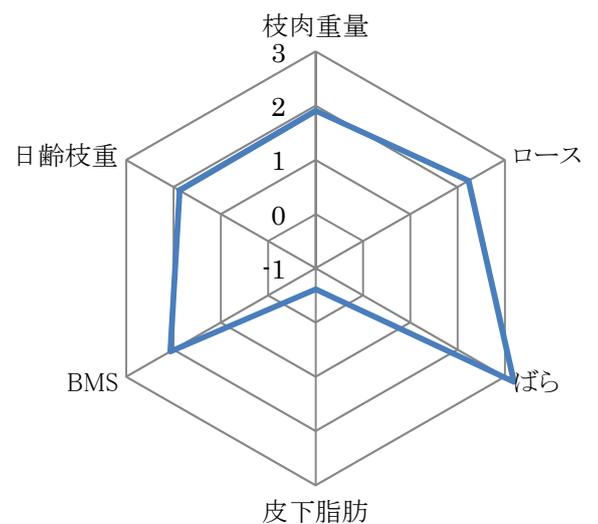


図1 SBV (標準化育種価)

※ 形質ごとに比較でき、わかりやすくするために標準化したもの
 ※ 皮下脂肪は逆符号